

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第30号



清水市長



平成二十八年十二月十日(土)
会場・浦和コミュニティセンター
浦和駅東口市民ひろば

平成二十八年年度
「障害者週間」
市民のつどい

基調講演

「自閉症の僕の七転び八起き」 「我が子の可能性を信じる子育て」

東田直樹氏
東田美紀氏

平成二十八年度の障害者週間「市民のつどい」の基調講演に、重度の自閉症でありながらも、作家として知られる東田直樹氏と、母親の東田美紀氏がお越しくださいました。

直樹氏の講演は、言葉のない障害のある人たちの気持ちを代弁するものでした。自分が話せないことの疑問・出来ないことを軽々とこなす人たちを見るたびに泣きたくなったこと・話せなくても聞こえてくる会話など、自身を壊れたロボットに置き換えて、何かを習得するのに時間がかかることやパニックのことなど、当事者でないとは分からない気持ちを率直にお話しされ、親でも気づけない新しい視点を多く知ることができました。母親である美紀氏の子育てにも、可能性を信じて直樹氏と



東田直樹氏と東田美紀氏



宮部 幸子

向き合い、努力をされてきた姿勢が素晴らしいと思いました。重度の障害があっても、喜びや哀しみ辛さなどは、当然ながら、みんなが持っているのだと改めて思います。ただ、それらを理解し伝えることが困難なだけで、回りの人たちの「諦めない」ことが重要だとの話しは、とても重いものでした。

時代の変化と共に、タブレット端末などを使って、言葉に代える人たちも増えてくることでしよう。言葉がなくても会話がしたいと願う家族の、大切なコ

ミュニケーションツールになると思います。一方で、誰もが使えるとは限りません。当事者の気持ちに寄り添い、その人に合った意志の伝達方法を見つけ、それを育むことが何より大切なことなのだと、直樹氏と美紀氏の講演と質疑応答の中から見つけられたように思います。

さいたま市手をつなぐ育成会

作品展示

今年もたくさんさんの力作がそろいました。中でも、部屋の真ん中に飾られた生け花は、部屋と見る人の心を明るくしてくれていました。



体験作文・障害者週間のポスター表彰



今年度も内閣府並びに都道府県・指定都市の共催で「心の輪を広げる障害者理解促進事業」が実施され、心の輪を広げる体験作文3作品と障害者週間のポスター2作品がさいたま市最優秀賞を受賞しました。

受賞者は、体験作文では、「障害者に教わったこと」を書いた上木崎小学校6年の久永翔太君、「僕の父」を書いた浦和中

学校3年の井上勝斗君、「母からのプレゼント」を書いた福居庸子さん、障害者週間のポスターでは、柏崎小学校3年の服田唯花さんと大成中学校1年の榎本雛さんです。

「障害者週間」市民のつどいにおいて表彰式を執り行い、受賞した方4名(1名欠席)には、市長から直接、賞状が授与され



▶服田唯花さん



▶榎本雛さん

ました。

表彰式では、作文の朗読とポスターの映写を行い、来場者に作品が紹介されました。特に榎本雛さんのポスターは、内閣府の審査においても最優秀賞に選

全国障害者スポーツ大会

考えられた作品で、ウィルチェアラグビーの迫力が見事に表現されており、見る人を惹きつけていました。

さいたま市障害政策課

希望郷岩手大会は、十月二十日から二十四日の日程で開催されました。選手二十名、役員二十名で参加しました。大会を

した。来年は、愛媛で開催されます。選手の皆さん、来年も、代表選手になれるようがんばってください。

さいたま市障害者協議会

副会長 渡辺 浩二

通して選手たちは、すばらしい成績を残すことができ、メダルの数も前回大会を上回る数を獲得することができました。そして多くの人たちに感動と勇気を与えてくれました。これも選手一人一人が、日頃の練習の成果を発揮し、全力で競技に打ち込んでくれたからだと思います。



また、選手たちは大会期間中

サポートしていただいた、地元、岩手県のスタッフ、ボランティアの方々との交流を深め、たくさん思い出も作ることができま

物品販売コーナー

十階ロビーではもちろん、市民ひろばでも寒さに負けず、笑顔いっぱい、「いらっしやいませ」「こんにちは」「ありがとうございます」と元気な声があちこちから聞こえていました。



埼玉大学 アカベラサークル CHOCOLETZ



ザ山崎ブラザーズバンド



埼玉大学 Swing Cube Jazz Orchestra White Band

寒い中、がんばって演奏して下さいました

アトラクション ～市民ひろば～

アトラクション 多目的ホール

ラブジャンクス



いっしょに楽しく踊れたね



浦和児童合唱団



ステキな歌声でした。クリスマスソングも楽しかったですね。会場のそこかしこから一緒に口ずさむ声が聞こえてきました。

ジャズ



埼玉大学 Swing Cube Jazz Orchestra White Band

スタンプラリーも やったよ!



市民のつどい 風景



団体企画



手をつなぐ育成会
「会の活動や障害特性の解説と体験」



埼玉県筋ジストロフィー協会
「アロママッサージ」



さいたま市視覚障害者福祉協会
「点字・マッサージ」



さいたま市聴覚障害者協会
「手話教室と体験」



さいたま市視覚障害者福祉協会
「囲碁・将棋」



さいたま市ダウン症連絡会

その他

さいたま市精神障害者家族連絡会による
「相談会・展示」

さいたま市障害者生活支援センターと
さいたま市消費者生活総合支援センター
による「出張相談」



埼玉県自閉症協会さいたま地区
「歌・童謡」

「障害者週間市民のつどい」を振りかえって

市民のつどい実行委員長 田口 秀之助

恒例の「障害者週間市民のつどい」が昨年十二月十日「浦和コミュニティセンター」、浦和駅東口前市民広場において開催されました。この場所での開催は二回目になります。

昨年度の参加者一、〇二四人に対して、今年度一、一四二人です。これは、さいたま市担当課、スタッフ、ボランティア、立教大学の学生さんなど全員が一丸となって取り組んだ成果だと思えます。

「基調講演」東田直樹さんのお名前を私は知らなかったのですが満席になり補助いすまで出したので驚きました。



翌日の「NHKスペースシャトル」で東田さんのことが大きく報じられていてよくわかりました。何よりも見ていてお母様の美樹さんの親子愛に感動しました。

「ラブジャンクス」のダンスの素晴らしさには驚きました。初めて見たのですがこれでみんな障害者？素晴らしい。全員びったりと息が合っていました。最後に会場の方もどうぞの

声に障害児が幾人も舞台上に上がりましたが小さい子の手を取って踊っていました素晴らしい。公演を開いていらっしやる、

このことなのでぜひ見に行きたいです

天気はよかったですのですが風の冷たい日でしたので駅前広場の

担当の方は大変なご苦労されたと思います。

目立たないところで多くの方々が協力してくださったおかげでこのような素晴らしい催しが出来ました。「さいたま市障害者協議会」障害の種別を乗り越えて団結して明るい未来に向かって進みましょう。

アンケートより

● 東田さんの基調講演が良かった。感動した。

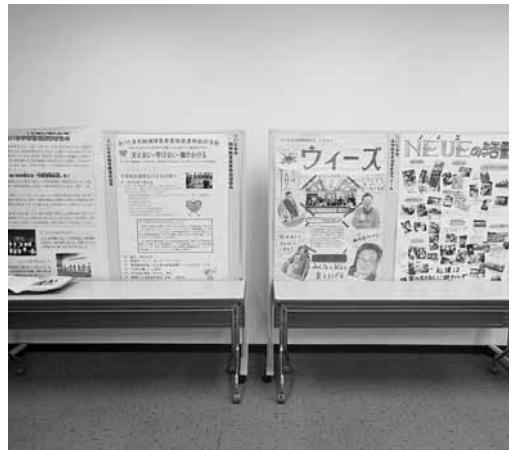
● 言葉が出ないだけで本当の気持ちを表現する。伝えたいへんさがよくわかった。触れ合う大切さを改めて考えた。

● 内面にある気持ちを理解してもらえずに苦しんでいる人がたくさんいるのだと思うと自分にできることをしたいと思う。

● コミュニケーションを取ることに困難でも皆いろいろと考えている。寄り添っていく必要性を感じた。

● 学校にあったチラシで初めてこのような取り組みを知った。良かった。見えないけれど大切なものがあることを実感した。

● 障害者理解につながる機会になればと思います



バス見学会



日本オストミー協会
さいたま市支部 野本喜代司

平成28年12月12日(月)さいたま市障害者協議会バス研修旅行に参加しました。

目的地は栃木県足利市のころみ学園とココ・ファームワイナリーで、18名が参加しました。8時30分にさいたま新都心を出発し、10時30分頃定刻にころみ学園に到着しました。案内をしていただいた池上さんによりまずと、「当初、知的障害者更生施設ころみ学園で酒造免許を取得するつもりであったが、補助金をもらう立場のころみ学園が酒税を納めるのは問題があることからココ・ファームワイナリーは、名目上別法人になっており、知的障害を持つ人たちをはじめ、皆がいきいきと力を発揮できるようにつくられた会社です」との説明がありました。

ぶどう畑は南西斜面向きの山の急斜面にあり、陽当たりや水はけが良くいいぶどうが収穫でき、同社のワインは2009年の「九州沖縄サミット」や2008年の「北海道サミット」で使用されたことで有名です。ワインを試飲し、おいしい食事をいただき、お土産にワインを購入し16時頃無事新都心駅に着きました。



新年団体交流会

さいたま市肢体不自由児・者
父母の会 泉 千恵子

一月二十三日、パレスホテルで行なわれた新年団体交流会に、会より三名参加させて頂きました。作り手の真心が伝わってくるような見た目にも美しいお料理に会話弾み、恒例のくじ引きで大いに盛り上がり、和気あいあい楽しい時間になりました。

またこの交流会は、参加団体代表の皆様から貴重なお話を聞く事ができる数少ない機会でもありません。一番の問題点は偏見であり、立ち向かっていくという力強いお話しには、身が引き締まる思いでした。様々な障害や困難な状況の中でも懸命に活動されている皆様から、沢山の勇気を頂きました。会員の高齢化と子供の障害の重度化で厳しさが増す私たちの会も頑張る一年にしたいと思えました。



編集後記

◆平成28年度は、4月の熊本大地震を始めとして、相模原市の津久井やまゆり園での事件、台風による東北・北海道の水害での高齢者グループホームの水没事故、利用し慣れているはずの駅で起こった、ホームからの転落死亡事故等々、障害者高齢者の生存を脅かす事件・事故が相次いで起こりました。◆奇しくも「障害者差別解消法」がこの4月から施行され、障害者権利条約の下、国の障害者の権利保障への取り組みが、歩み出そうとしたその年に起こった事件・事故でした。◆私たちはこの事実にしつかりと向き合って、障害者の生活と権利を守るため、障害者協議会としてしつかりと手を携えて行かなくてはならないと思います。(平林)

発行 さいたま市障害者
社会参加推進センター
〒330-0801
さいたま市大宮区土手町
1-11-11
大宮ふれあい福祉センター4F
TEL 〇四八・六五三・七二七一
FAX 〇四八・六五三・七三四一
http://www.saitama-planet.com/
e-mail saitamacity-handynet@bz03.plala.or.jp
発行・編集人 田口 秀之助